

新型肺炎感染拡大で、北朝鮮および関係国に特異な動きがある

— 新型肺炎対応を見れば、生物兵器の脅威がわかる —

軍事・情報戦略研究所長 西村 金一

中国は、新型肺炎患者の発生を隠ぺい、初期対応の手際悪さ、国内に内蔵する脆弱性によって、感染を国内・国外に拡大させた。我が国にとっても一大事であるが、生物兵器戦（以後、生物戦）の視点で感染拡大の事態を見るならば、まさしく、生物戦と同様のことが今起こっているといつてよい。保菌者である多くの中国人が春節の休みに、世界各国および日本各地を訪問し、武漢ウイルス（以後、ウイルス）をばら撒いて感染させている。

これは、生物兵器が搭載されたミサイルを日本に撃ち込むことや、特殊部隊がウイルスを各地にばら撒くことと同じように、私には見える。国家安全保障に携わる関係者は、同様の視点で感染拡大と対処を見ているだろうか。

今回の極めて特異な事態には、様々な教訓がある。その中でも、軍事作戦にかかわる事項、特に、生物兵器を保有している北朝鮮（以後、北）の神経質なまでの対応、および関係国の特異な動きについて述べる。

一 北朝鮮は、いつでも生物兵器を使用できる状態にある

北は、一九六〇年代初頭、金日成主席の指示で生物兵器開発を推進し、生物兵器製造のための施設を建設した。北は、生物兵器禁止条約に一九八七年、署名・批准しているが、生物兵器の開発、生産、貯蔵等を禁止し、既に保有する生物兵器を廃棄しなければならぬとする条約の規定に従わず、大量の生物兵器を保有している。

これを裏付ける情報には、次のものがある。一九九七年、韓国に亡命した北軍の大佐は、「国防部直轄に細菌研究所が存在する」、二〇〇二年三月、元在韓米軍司令官シユワルツ將軍は「北は、生物兵器を開発し生産する能力を有している」、ポルトン次官補（当時）は、「北が生物戦能力を遂行できるように国家レベルで努力し、また生物兵器プログラムを有している」、と証言した。

韓国国防部は、北が二〇一六年には、炭疽菌、天然痘、ペス